

第4章-1

地域に根ざし、営まれている産業

市内には、さまざまな工夫を凝らし人々の暮らしを豊かにする産業が地域に根ざして営まれています。工業、農業、漁業、商業の順に紹介していきます。

◆工業の発展－工場の誘致

市では、1956(昭和31)年以降、多くの工場が進出してきました。その要因として、京阪神に近く、関西・中京・北陸の接点に位置し、東海道本線の電化、名神高速道路と琵琶湖大橋の開通など交通網が整備されてきたこと、また、野洲川の伏流水など工業用水が豊富にあることが挙げられます。

1956(昭和31)に化学繊維工場で

ある日窒アセテート(株)[現、旭化成(株)とJNCファイバーズ(株)]を誘致しました。それ以降、昭和30年代に日本バイリーン(株)、富士車輛(株)、神港精機(株)など、昭和40年代以降もダイハツディーゼル(株)、東洋インキ(株)、大同塗料(株)、日本コカ・コーラ(株)などが進出しました。



▲古高工業団地



▲勝部工業適地に工場が進出



▲稲刈りをしているところ



▲いちご狩りを楽しむ



▲守山特産のバラ

◆工業団地の造成

市では、工業の振興をはかるため、工業用地を次々に造成していきました。三宅を皮切りに立入・岡・古

高・勝部に次々と工業団地を造成し、先にあげた工場が進出するようになつたのです。

◆特色ある農業の展開

宅地開発をはじめとした都市化、工場の進出にともない、農業用地は減少し、農家の兼業化が進みました。

2018(平成30)年現在、農地はおよそ1940haあり、うち水田が9割近くを占め、米づくりが中心になっています。ほかにコマツナやキュウリなどの野菜、バラやキクなどの花卉、ナシやブドウなどの果樹を栽培しています。

花卉や果実的野菜を栽培している農家がいくつもあり、それぞれ地域に根

ざし、特色ある農業経営を展開しています。

なかでも地域住民とともに地産地消をモットーにユニークな活動を行っている農事組合法人、直売所での果樹などの販売に加え、収穫体験を楽しむことができる農園、花卉の切り花や苗の栽培などに取り組み、世界を視野に入れ、各国の農園とコラボレーションを進めている農園などが注目されています。

◆漁師は琵琶湖を守る「防人」

守山漁業協同組合は、35年ほど前には組員が75人くらいいましたが、漁獲量が激減し、2019(令和元)年現在では35人まで減少しています。そのうち60歳以上が大半を占め、漁師の高齢化は深刻です。

主力のえり漁で主にアユをとっていますが、その漁獲量は決して芳しくありません。そのような状況でも、琵琶湖の水質がよくなり、多様な魚介類が生息する琵琶湖をめざし、国や県の委託を受け

働く喜びを大切に
産業の栄えまち



▲リニューアルした銀座商店街



▲かつての銀座商店街



▲もりやま琵琶湖パール



▲真珠棚

る中、漁師は水草や外来魚を駆除し、まさに琵琶湖を守る「防人」としての役割を果たしているのです。



▲えり漁

◆もりやま琵琶湖パールを手がける

赤野井湾では、約90年前から琵琶湖固有のイケチョウガイを母貝とする淡水真珠の養殖を行っていました。玉津小津漁業協同組合では、その技術を受け継ぎ、組合員32人(2019年現

在)が力を合わせて、琵琶湖の環境保全活動に取り組みながら、新しい琵琶湖パールの生産に取り組み、ブランド化をめざしています

◆地元商店街の活性化をめざして

市内には、守山駅を中心に、銀座一番街・銀座・ほたる通り・中央・元町などの商店街があります。1971(昭和46)年に西友守山店、1976(昭和51)年に平和堂守山店がオープンするなど、大型店が進出してくるなかで、買物客の流れが変わり、各商店街は苦境に立たされました。

少子高齢化がますます進行する中で、地元の商店は守山夏まつりやルシオールアートキッズフェスティバル、守山ほたるパーク&ウォークなど

のイベントに積極的に参加し、大型店にはない、地元や近隣住民とのネットワーク(つながり)を大事にした取り組みを進めています。

また、市内外から出店する新たな起業家(商店主)も出てきています。大都市でもなく田舎でもなく、人口増加も見込まれる地の利をいかし、カフェや飲食店などが少しずつオープンしています。消費者は各店舗のこだわりに惹かれ、店舗もニーズを踏まえたオンラインリーワンの経営を行っています。

第4章-2 市の玄関づくり



▲昭和40年代の守山駅



▲建設中の琵琶湖大橋
(資料:『琵琶湖大橋建設記念誌』)



▲琵琶湖大橋開通当時にぎわい



▲佐川美術館(提供:佐川美術館)

◆守山駅の開業、そして現在へ

国鉄守山駅は、1912(明治45)年に開業しました。開業にともない、専徳寺横(現信号「今宿町」)から守山駅へ向かう道(守山停車場線)が、1928(昭和3)年には梅田道(元駅前本通り・現ほたる通り)が開通し、それぞれ中山道と結ばれました。米原-京都間が電化された1956(昭和31)年以降はスピードアップがはかられ、便数も増え、利用者が急速に増えていきました。1973(昭和48)年に現在の2階建ての橋上駅舎が完成します。その費用のうち国鉄の負担は少なく、多くは借入金や寄付金が当てられました。

1987(昭和62)年に国鉄が分割・民営化され、市域の鉄道はJR西日本によって運営されるようになりました。JR西日本の経営のもと、守山駅発(下り)の新快速電車は同年に一日9本、翌年には12本、1989(平成元)年には34本に増発され、2019(令和元)年現在は64本にもなっています。それにともない、駅前再開発が本格化してきました。1986(昭和61)年にセルバ守山が完成し、その後も次々と高層マンションや商業ビルが建設されました。また、守山駅はエスカレーターとエレベーターを整備し、バリアフリー化を進めてきました。

◆琵琶湖大橋の建設と取付道路の整備

選挙で「対岸の堅田との間に橋をかける」を公約に掲げ、速野村長となつた今井政右衛門ですが、村民はどうてい実現できるとは思わず「夢のかけ橋」とされていました。1955(昭和30)年に合併し、新しい守山町の初代町長になった今井の情熱は、ますます燃えさかり、ことあるごとに滋賀県知事をはじめ関係各機関に橋の実現を働き続けました。その努力が実り、1960(昭和35年)にようやく橋の建設

が許可されました。その2年後に工事が始められ、東京オリンピック開催直前の1964(昭和39)年9月に完成しました。長さ1350m、当時国内最長の橋でした。

同時に琵琶湖大橋と国道8号を結ぶ取付道路(愛称・レインボーロード)がつくられ、その後、沿線や湖岸地域が大きく発展し、様変わりすることになります。

◆活気づく北の玄関口(湖辺地域)

佐川美術館は、佐川急便株式会社の創業40周年を記念して、1998(平成10)年にオープンしました。水に浮かぶように建てられた館内には、日本を代表する芸術家である平山郁夫(日本画家)、佐藤忠良(彫刻家)、樂吉左衛門(陶芸家)の作品が展示されています。2017(平成29)年に守山市は、佐川美術館と「連携協力に関する協定」を結びました。

ピエリ守山は、2008(平成20)年に大型ショッピングモールとして開業し、2014(平成26)年にリニューアルしました。屋外に空中アスレチックやフットサル場、温浴施設なども併設し、多くの利用者でにぎわっています。近隣にはマリーナやリブランドされたホテルが営業し、客足が伸びてきています。

◆中心市街地の活性化へ

市制施行後の市は基盤整備が進み人口も増加して田園都市として成長を続けてきました。しかし、都市の顔となる駅前周辺地域において市制施行前のぎわいが薄れ、活力が低下してきました。

消費者の動向が地元商店街から郊外の大型店へと移り、商店街では空き店舗が増加していくなどの状況が続いていました。

市制施行直後の1976(昭和51)年と31年後の2007(平成19)年の統計調査

を比較すると、地元商店街の商店数や販売額が5割近く減少していました。

そこで対策として駅周辺中心市街地の活性化をはかる事業を計画し、官民が一体となってこれを進め、その効果が市全体におよぶことをめざしました。

◆中心市街地活性化基本計画

中心市街地活性化基本計画(第一期)は、JR守山駅周辺から市役所辺りまでの146haを中心市街地として、2009(平成21)年度から5か年で61件

の事業を展開しようとするものです。中心市街地活性化協議会が事業の総合調整をはかるなか、市・民間事業者・みらいもりやま21(まちづくり会

社)等が一体となり、中心市街地活性化に向けて取り組んでいくことになりました。

◆中心市街地活性化事業の継続

市は道路や公園および福利施設等の施設整備に着手、民間事業では駅前のセルバ守山にチカ守山がオープンしました。みらいもりやま21は空き店舗対策などのソフト事業に取り組んでいます。

これらの実施によって、2012(平成24)年にオープンした、あまが池プラザにあっては利用者が年5万人近くになるなど、活性化の効果が現れてきました。

ただ、第一期の事業を終えた時点での市民意識調査によると活性したとの声は少なく、また駐車駐輪対策や商業施設の誘致を求める声が多くあったことから、引き続き活性化事業に取り組んでい

く必要があると考えされました。

そこで、2015(平成27)年から5か年、第二期計画として対象区域を第一期の約146haから約177haに拡張し、健康に主眼をおいた新たな取組を追加したうえで継続することになりました。

2017(平成29)年にcocotto MORIYAMAがオープンし、2019(令和元)年に守山銀座ビル西棟が完成しました。また、セルバ守山内に新しい店が開業するなど活性化が進んでいます。

事業は2020(令和2)年度末まで期間を延長して実施することとなっています。



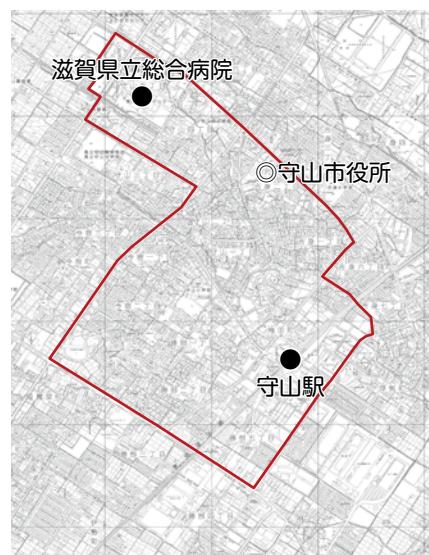
▲チカ守山



▲中心市街地



▲守山市歴史文化まちづくり館
(愛称:守山宿・町家“うの家”)



▲中心市街地区域図